

平成30年（2018年）の恐山の火山活動

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

噴気活動及び地熱活動に大きな変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

○ 噴火警報・予報の状況、2018年の発表履歴

2018年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
------------	-------------------

○ 2018年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～5）

8月に実施した現地調査では、宇曽利山湖北岸で従来から見られる噴気や地熱域が確認されました。前回（2017年10月）と比較して、噴気の様子や地熱域に大きな変化は認められませんでした。

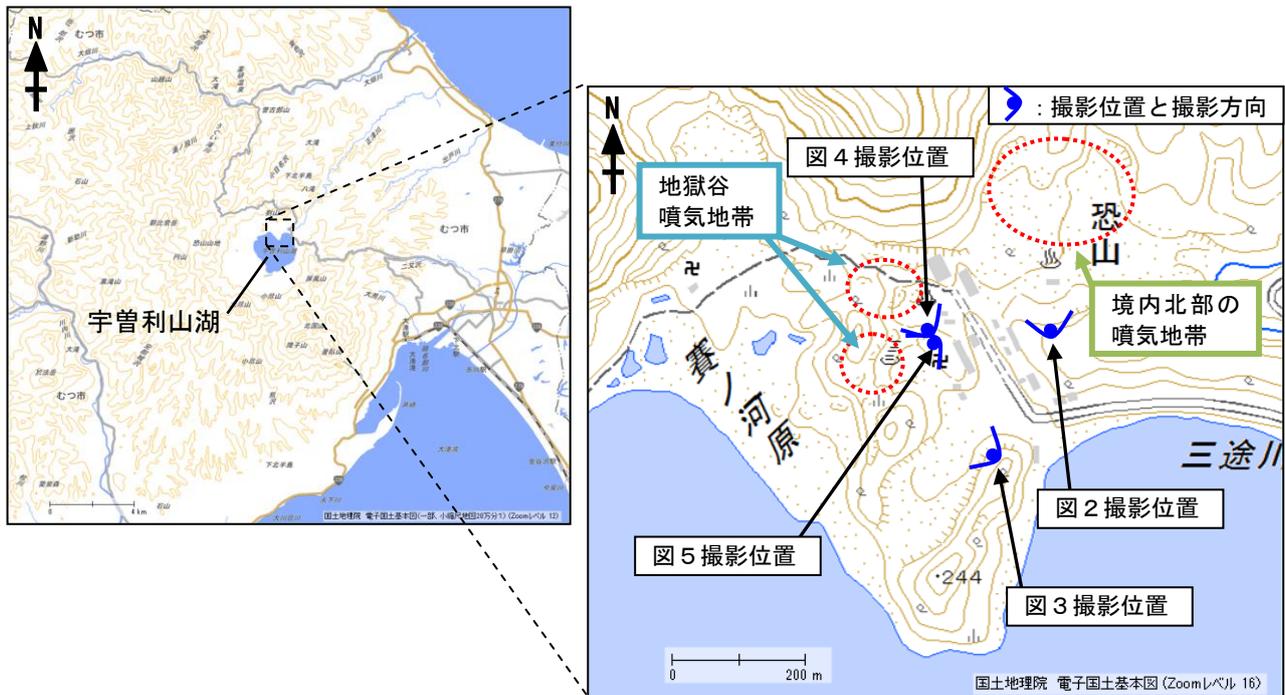


図1 恐山 宇曽利山湖北岸の写真と地表面温度分布¹⁾ 撮影位置及び撮影方向

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

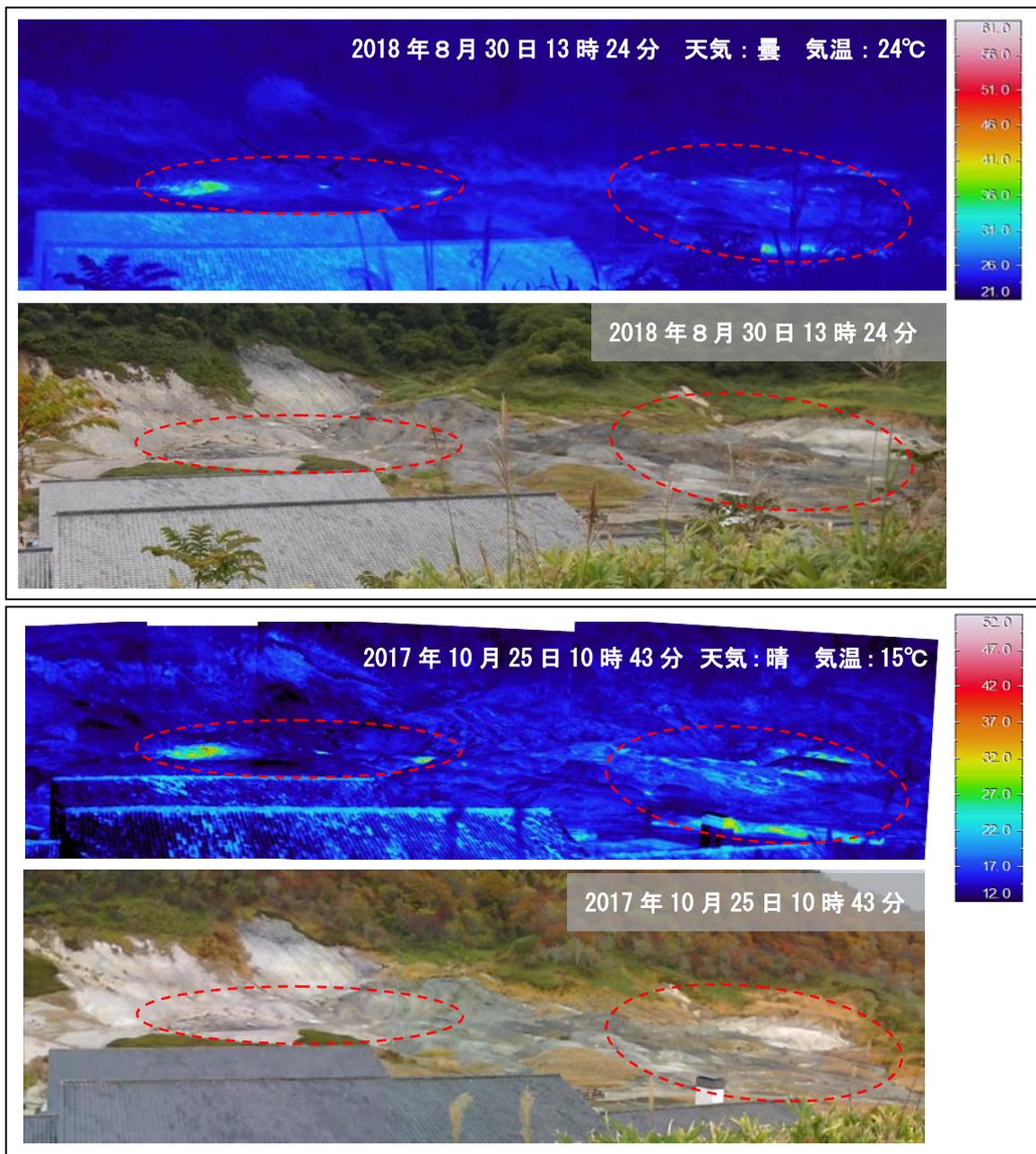


図2 恐山 南から撮影した境内北部の噴気地帯の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤破線）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。
- ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。

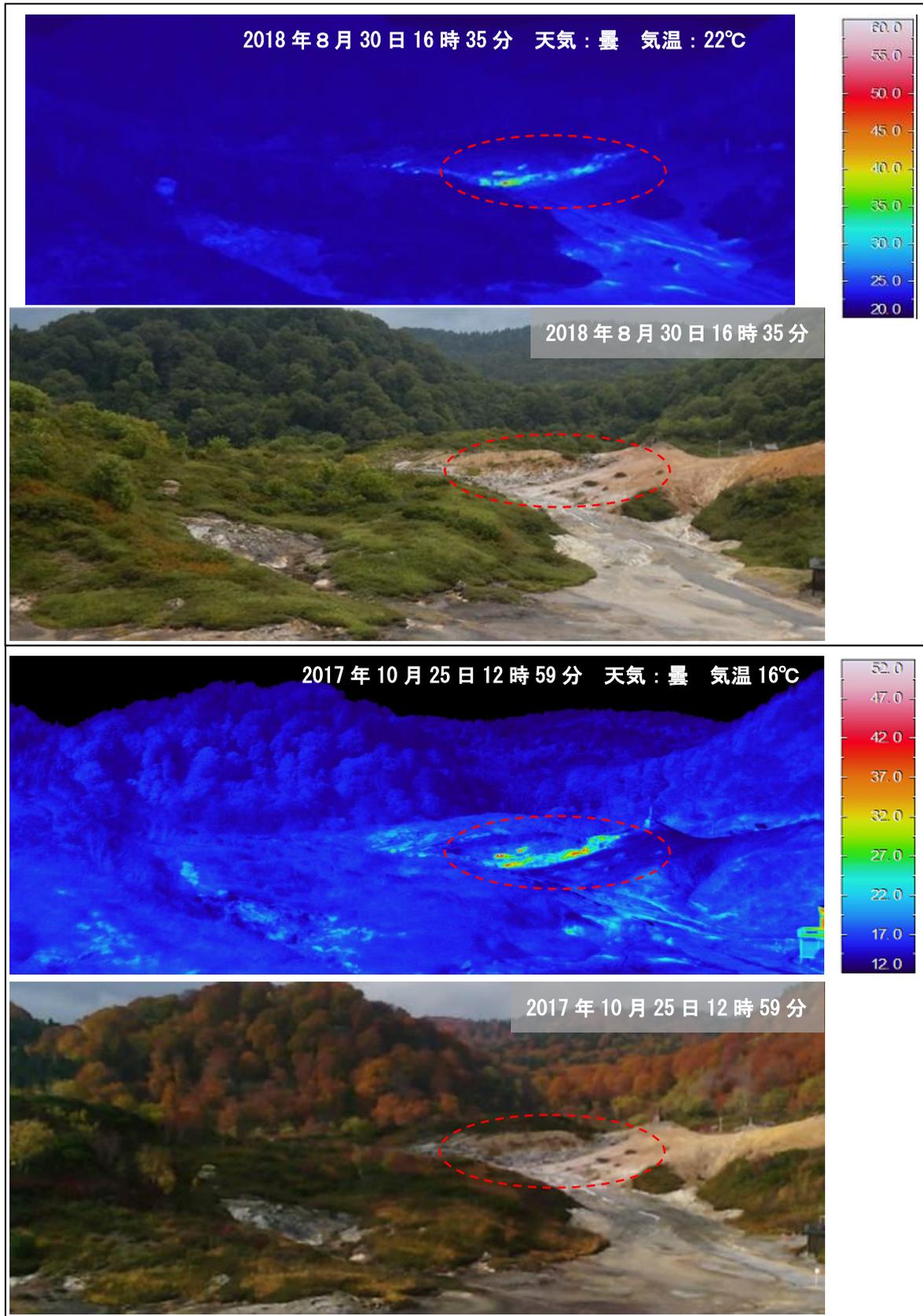


図3 恐山 南東から撮影した地獄谷噴気地帯の状況と地表面温度分布

・地熱域（赤破線）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。
 ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。

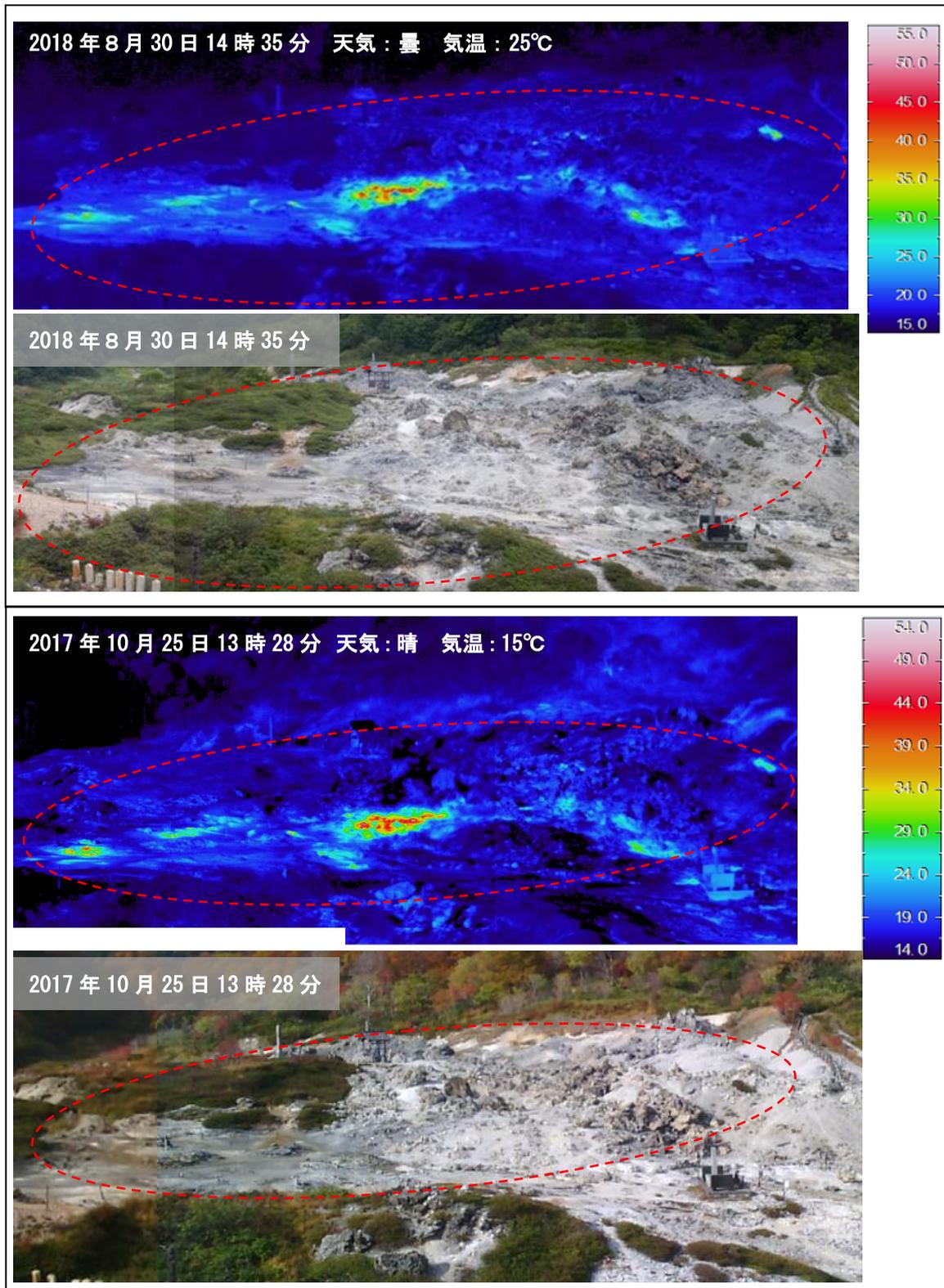


図4 恐山 南東から撮影した地獄谷噴気地帯の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤破線）や噴気の状態に特段の変化は認められませんでした。
- ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。

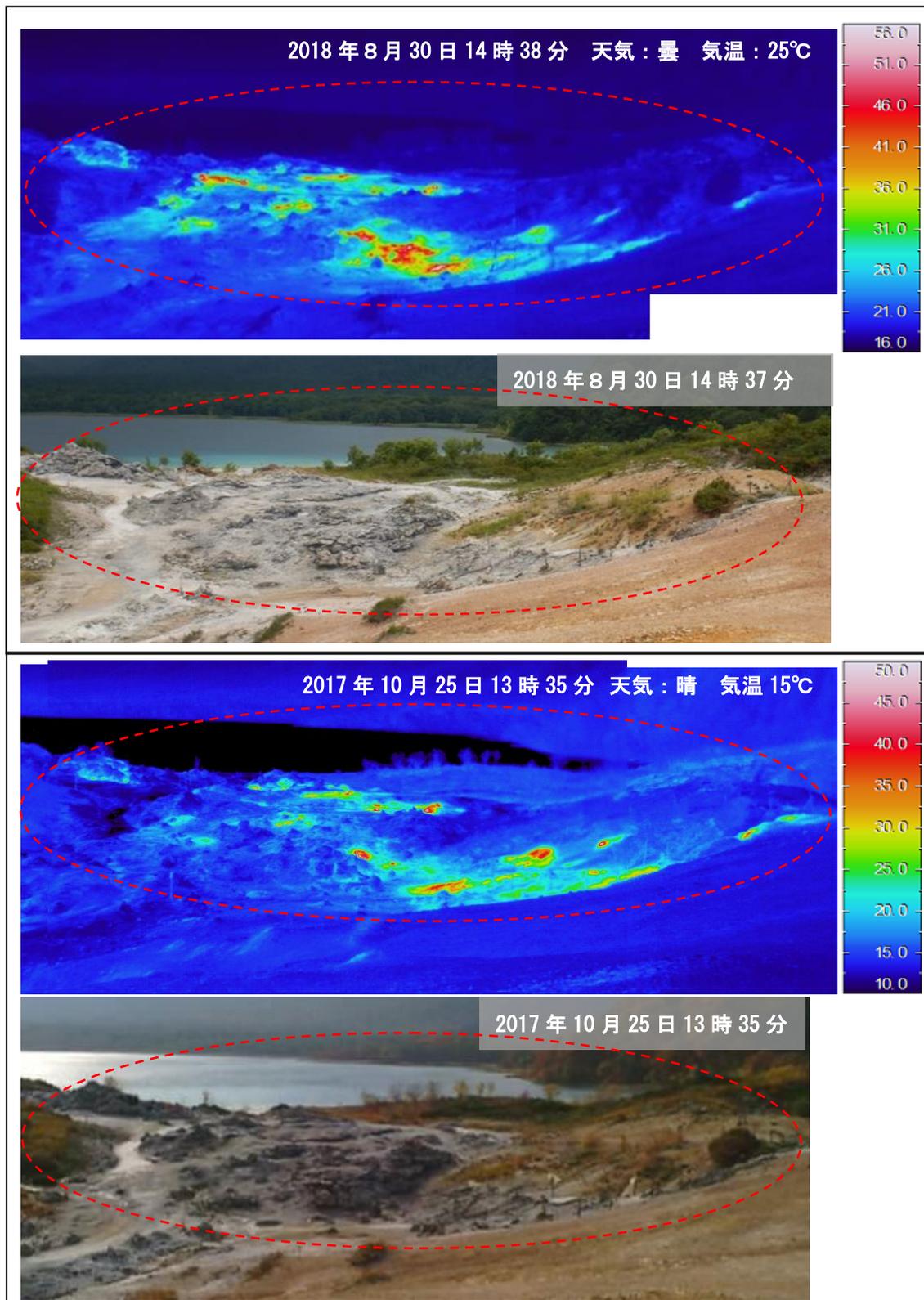


図5 恐山 東北東から撮影した地獄谷噴気地帯の状況と地表面温度分布

- ・地熱域（赤破線）や噴気の状態に大きな変化は認められませんでした。
- ※地熱域以外で温度の高い部分は、岩等が日射により温められたことによるものと推定されます。